Strix 8:271-273 (1989)

ソ連における鳥類研究史[1]

She En Sen[2]
訳：藤巻裕蔵[3]

すでに大昔から私たちの先祖は，鳥類に関する知識，またそれらの名称，生活様式，繁殖や集結の場所に関する知識をもっていたことは疑いない．このことについては，民話や古文書に示されている．しかし計画的・継続的な鳥類の研究が始まったのはやっと18世紀，学術探検が行なわれだした時期（1768～1775年）である．

わが国の鳥類研究の第一段階は，P.S. Pallas によるものである．学術探検の結果は Pallas によってモノグラフ「ロシア・アジアの動物地理学」(1811) にまとめられた．これはロシアの数多くの鳥類の分布と生態に関する最初の記述で，70種以上が記載された．

100年後，19世紀後半に M. A. Menzbir はロシアの鳥類相について新しい研究を行なった．

非常に多くの鳥類の標本が二つの主要な場所に集められた．それは1971年に設立されたモスクワ大学動物学博物館と科学アカデミー動物学博物館である．

ソビエト政権になって鳥類相の研究はさらに発展した．動物相の研究は新しい自然資源，新しい地域の探索や開発との関連で重要な意義をもつようになった（Menzbir, Sushkin, Buturlin).

1930年代に新しい学術の中心の設立，周辺地域での要員の養成に力が入れられた．すでにソビエト政権時代の初期に鳥類学の講座や研究室が設立され，新しい自然保護区ができた．首都や各自治共和国，また大都市や多くの地域の学術の中心地に開設された大学が増えるに従って，動物学講座（古生物学，農学，医学の各研究所）も増加した．

ソビエト政権の初期から各共和国にアカデミー機関が設立されはじめ，当初は科学アカデミーの施設の形で始まり，のちにソ連科学アカデミーの支部，さらに共和国アカデミーとなった．

アカデミー機関に鳥類学研究室や一定の地域の鳥類相の研究のための共同研究部門が設立された．

鳥類研究者の増加．ソビエト政権の初期に専門の鳥類研究者は十数人いたが，その多くはモスクワ，レニングラード，キエフに集中しており，戦後には数百人，現在は約1,000人の鳥学者が研究している．

1989年10月10日受理

1. 第4回日ソ鳥類保護シンポジウム講演（1989年2月4日，東京）

2. Zoological Institute, Academy of Sciences, Leningrad, V-164, USSR.

3. 〒080 帯広市稲田町 帯広畜産大学.

動物学研究機関はそれぞれ課題をもっており，その主要なものは生態・鳥類相研究であった．鳥類研究者が関心をもつ地域は，あまり研究されていない北極や亜北極地域，カザフスタン，中央アジア，極東，シベリア南部である．

ソ連の鳥類研究者の主要な研究の一つは，ソ連の動物の種・亜種目録の作成である．この時期までに多くの標本がソ連科学アカデミー動物学博物館，モスクワ大学動物博物館，キエフ大学，中央アジア大学に集められた．これらの標本を研究したのは，A.Ya. Tugarinov, L.A. Portenko, B.K. Shtegman, E.V. Kozlova, V.L. Bianki, A.I. Ivanov などである．これらの研究の成果は絶えず多くの論文として発表され，新しい分類書や地域の鳥類に関するモノグラフが出版された．

こうして，1934～1940年にモスクワの動物学者たちは，主にモスクワ大学の標本にもとづいてソ連全域をあつかった全ソ的なまとめである「ソ連の鳥類の大分類書」を発刊した．この5巻の全集に，ソ連に生息する鳥類の種・亜種の記載と分類表の形で目録がつけられた．これはソ連の鳥類の地理変異の詳しい研究の基礎となった．

1951～1954年には G.P. Dementiev と N.A. Gladkov の編集による6巻の「ソ連の鳥類」が出版された．6巻の「ソ連の鳥類」に加え，地域ごとの全集が出された．プリモーリエ (K.A. Vorobiev)，サハリン (A.I. Gizenko)，ヤクーチャ (K.A. Vorobiev)，トルクメン (G.P. Dementiev & A.K. Rustamov)，キルギス，リトアニア，カルパチアなどの地域の鳥類のモノグラフである．「ガザフスタンの鳥類」は5巻ある．

ソ連科学アカデミー動物学研究所におり，「動物相」シリーズで鳥類の8巻と分類書「ソ連の鳥類」4巻が出版された．

地域の研究が広く行なわれるようになり，研究機関や鳥類相の研究をする研究者の増加により，組織的研究や共同研究の強化が必要となった．そのためソ連鳥学委員会が設立された．

動物相の研究者は絶えず鳥類の渡りに関心をもった．それは，広大なソ連に生息する鳥類の大部分は渡り鳥だからである．最近，鳥類の渡りの研究は産業上の重要性をもつようになった．渡りに関する共同委員会が設置された．最初に共同計画がたてられ，計画的研究が行なわれた．その結果が「渡り鳥地図」である．1975年に研究の集大成である「ソ連の鳥類の研究における標識」が出版された．

第一回の鳥学会が1956年にレニングラードで行なわれた（3年おき）．

わが国の鳥類の研究は各地で行なわれ，その結果は論文集「オルニトロギヤ［鳥類学］」，「ゾロギチェスキ・ジュルナル［動物学雑誌］」に発表された．1960年代から80年代初頭までに極東，シベリア，中央アジア，ボルガ川沿い中央部，ヨーロッパ・ロシア中部などの各地における鳥類の集大成が出た．

ソ連の鳥類研究者が絶えず心をくばっているのは，鳥類の保護についてである．このような研究は，1955年のソ連科学アカデミー自然保護委員会 ── 現在はソ連農業省の全ソ自然保護研究所と自然保護区の設立とともにとくに活発となった．

1960年代に鳥類研究者は猛禽類や魚食性鳥類の保護に活発にとりくみ，それらの急速な減少を食い止めた．

1970年代には，鳥類研究者はとくに保護を必要とする稀少種を明らかにすることに力を注いだ．その結果「ソ連レッド・データ・ブック」(1978) に鳥類の部分ができた．さら

に共和国ごとに「レッド・データ・ブック」が準備され，出版された．

A history of ornithology in the USSR

She En Sen[1]
(Translated by Yuzo Fujimaki[2])

The first period of ornithology in the USSR was initiated by P.S. Pallas in the 1800's. In the second half of the 19th century M.A. Menzbir studied the avi-fauna of Russia. In the 1930's ornithological research became active with the establishment of institutes and universities in large cities. At present about 1,000 ornithologists are working in the USSR.

The main subjects in ornithology in the USSR have been avi-fauna and the biology of birds. Much research was conducted by A.Ya. Tugarinov, L.A. Portenko, B.K. Shtegman, E.V. Kozlova, V.L. Bianki, A.I. Ivanov and the others. One result of these works was published as "Complete classification of birds of the USSR" (5 vols., 1934-1940). From 1951 new series on the birds fauna of the USSR were published. In addition to these, many works on birds were published in "Ornitologiya (Ornithology)" and "Zologicheski Zhurnal (Zoological Magazine)".

The first ornithological conference was held in Leningrad in 1956. In the 1960's research on rare birds started and in the 1970's several kinds of "Red Data Book" were published.

1. Zoological Institute, Academy of Sciences, Leningrad, V-164, USSR
2. Obihiro Unirersity of Agriculture and Veterinary Medicine, Inada-cho, Obihiro 080